

ネコとネズミのいっしょのくらし

グリム Grimm

矢崎源九郎訳

青空文庫



ネコがネズミと知りあいになりました。ネコはネズミにむかって、これからきみをうんとかわいがって、なかよくしてあげるよ、と、さかんにうまいことをいいたてました。それで、とうとうネズミは、ネコとおなじうちにするで、いっしょにくらすことを承知してしまいました。

「だが、わたしたちは、冬になつてもいいように、用意をしておかなくちやならないよ。さもないと、ひもじいめにあうからね。」  
と、ネコがいました。

「ネズミくん、きみはそこらじゆう、むやみに歩きまわることではできないだろう。ネズミとりにでもひつかかるとこまるものねえ。」

このしんせつな忠告どおりにして、ふたりはヘット（料理につかう牛の脂肪）のはいつた小さなつぼをひとつ買いこみました。でも、そのつぼをどこへおいたものか、どうもふたりにはよくわかりません。それで、長いこと考えぬいたあげくに、とうとう、ネコがこういいました。

「こいつをしまっておくのにいい場所といったら、まず教会のほかにはないだろうよ。」

あそこなら、まさかぬすみだすやつもいまいからね。祭壇さいだんの下においといて、入り用なときがくるまでは、手をつけないでおくことにしよう。」

これで、つぼはだれにもぬすまれる心配しんぱいはなくなりました。ところが、いくらもたたないうちに、ネコはヘットがなめたくてしようがなくなりました。そこで、ネズミにむかつていいました。

「きみに話したいことがあるんだがね、ネズミくん。じつは、わたしはおばさんから名なづけ親おやになつてくれたたのまれているんだよ。おばさんがね、白と茶色ちやいろのぶちのむすこを一ぴき生なんだもんだから、その子の洗せん礼れいにたちあつてくれたっていうのさ。だから、きようはひとつ、わたしをでかけさせて、おまえさんひとりで、うちのことをやっていてくれないかね。」

「いいですよ、いいですよ。」  
と、ネズミはこたえました。

「えんりよなくいつてらっしゃい。あなたがなにかおいしいものでもめしあがるときには、あたしのことも思いだしてくださいな。産婦さんぶさんののむ、あまい赤あかブドウ酒しゆのようなものなら、あたしもひとしづくぐらい、いただきたいですよ。」

ところがこれは、ぜんぶでたらめなんです。だって、ネコにはおばさんなんてひとりもないんですからね。ですから、名づけ親にたのまれたなんて、とんでもない話なのです。

ネコは、そのままですぐ教きょうかい会へいつて、あのつぼのところへしのびこむと、さっそくピチャ、ピチャなめはじめました。そしてまもなく、ヘットのどろんとした上うわかわ皮かわを、きれいになめてしまいました。それから、町の家いへの屋根やねの上を散歩さんぽして、あたりのようすをながめてから、こんどは日なたに長ながとねそべりました。そして、さつきのヘットのつぼのことを思いだしては、そのたびに、ひげをこすっていました。

日がくれてから、ネコはやつとうちへかえつてきました。

「おや、おかえりになったのね。きょうは、さぞかしたのしかつたでしょう。」  
と、ネズミがいました。

「うん、うまくいったよ。」

と、ネコがこたえました。

「赤ちゃんにはどんな名まえがつけられましたの。」

と、ネズミがたずねました。

「へ皮かわなめさ。」

と、ネコは、そつげなくこたえました。

「皮なめですつて。」

と、ネズミは思わず大きな声でいいました。

「それはまた、きみのような、かわつた名まえですのね。あなたがたのおうちでは、そういう名まえがよくつけられるんですの。」

「こんなのは、なんでもないさ。きみの名づけ子のへパンくずどろぼうなんてのよりは、わるかあないぜ。」

と、ネコはいいました。

それからまもなく、ネコはまたまた、ヘットがなめたくてたまらなくなりました。そこで、ネコはネズミにいいました。

「ほんとに、きみにはすまないけど、もういっぺん、うちのことをひとりでもらわなきゃならない。じつは、また名づけ親にたのまれちまったんだよ。なにしろ、こんどの赤んぼうの首のまわりにや白い輪がついてることだから、どうしてもことわるわけにやかないのさ。」

心のすなおなネズミは、すぐに承知しました。ところがネコのほうは、町の石べいの

うしろをとおつて、きょうかい 教会のなかへしのびこみました。そして、あのヘットのつぽをはんぶん半分ほどもたいらげてしまったのです。

「まったく、このうまさは、ひとりで食べてみなくちやわからんて。」

と、ネコはいいました。そして、きょうはうまいことをやったもんだと、すっかり満まんぞく足していました。やがて、ネコがうちにかえつてきますと、ネズミがたずねました。

「こんどの赤ちゃんは、なんて名まえをつけてもらいましたの。」

「へ半はんぶん分ペろり〜。」

と、ネコはこたえました。

「半分ペろりですつて。なにをおつしやるのよ。そんな名まえは、あたしまだきいたことありませんわ。だいいち、そんな名まえ、人名簿じんめいぼにだつてのつちやいけませんよ。」

ネコは、まもなく、またおいしいごちそうが食べたくなって、しきりに口のなかにつばきがたまつてきました。

「いいことは三度あるつていうがね。」

と、ネコはネズミに話しました。

「じつは、また名なづけ親おやになつてくれつていわれているんだよ。こんどの子はまつ黒でね、

足だけが白いんだよ。そのほかは、からだじゅうどこにも白い毛けなんて一本もはえていないのさ。こんなのは、二、三年に一ぴきぐらいしか生まれななんだよ。だから、どうかわたしをもういちどいかしておくれ。」

「皮かわなめだの、半分はんぶん分ぶんぺろりだのって、ずいぶんおかしな名まえなのね。考えてみると、なんだかへんだわ。」

と、ネズミはこたえました。

「きみは、そのネズミ色のあらっぽい毛の上着うわぎをきこんで、長い毛をおさげにして、いつもうちのなかにばかりひっこんでいる。おまけに、年がら年じゆう、くよくよしている。昼まそとへでないもんだから、そんなふうになつちまうんだね。」

と、ネコがいました。

ネズミは、ネコのるすのあいだにうちのなかをきれいにかたづけて、きちんとしておきました。ところが、くいしんぼうのネコは、つぼのなかのヘットをすっかりたいらげました。まいました。

「みんなたいらげちまうと、やっと安心あんしんできるもんだ。」

ネコはこうひとりごとをいって、夜よがふけてから、ようやく、大満腹だいまんぷくでうちにかえつ

てきました。ネズミは、さつそく、三ばんめの赤んぼうにつけられた名まえをきいてみました。

「こんどの名まえも、きみには気にいらないだろうよ。」  
と、ネコがいました。

「こんどのは、へみんなぺろり」というのさ。」

「みんなぺろりですつて。」

と、ネズミは大声をあげました。

「そんな名まえが印刷いんさつされてるのは、まだ見たこともないわ。みんなぺろり。いったい、なんのことだろう。」

ネズミは頭をふりましたが、からだをまるくして、そのままねてしまいました。

それからは、もうだれも、ネコに名づけ親おやになってくれとたのむこともありませんでした。しかし、やがて冬がちかづいてきて、そとに食べものがなんにも見つからなくなりました。すると、ネズミはたくわえのことを思いだして、いいました。

「ねえ、ネコさん、ふたりでしまっておいたハットのとつぼのところへいきましようよ。きつとおいしいわよ。」

「よしてきた。」

と、ネコはこたえました。

「きつと、きみのそのうすつぺらな舌を、窓からだしたときののような味がするだろうぜ。」  
そこで、ふたりはでかけました。むこうへついてみますと、たしかに、つぼはもとのままの場所ばしょにおいてありました。ところが、その中身なかみがからっぽです。

「まあ。」

と、ネズミがいました。

「いまこそ、あたしにも、よつくわかったわ。すっかりわけがのみこめてよ。あなたは、たいへんなお友だちだったのね。なにもかもきれいに食べちまってさ、名づけ親おやになるなんていつちやあ食べて、はじめは上うわ皮かわをなめ、それから半分はんぶんぺろりとやって、そのつぎには……」

「だまらないか。」

と、ネコがどなりつけました。

「もうひとこといってみろ、おまえをくつちまうぞ。」

「みんなぺろり」と、あわれなネズミが、舌の上まででかかっていたことばを、口にする

かしないうちに、ネコはネズミめがけてひととびにおどりかかりました。そして、ネズミをひつつかむがはやいか、ぐうつとのみこんでしまったのです。

いいですか、世よのなかつてこんなものなんですよ。



# 青空文庫情報

底本：「グリム童話集（1）」偕成社文庫、偕成社

1980（昭和55）年6月1刷

2009（平成21）年6月49刷

入力：sogo

校正：チエコ

2019年8月30日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

# ネコとネズミのいっしょのくらし

グリム Grimm

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

著者 矢崎源九郎訳

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>